

排せつケアを通じ「未来に向けて、当社にしかできないことを、当社らしく実現できるか」



ユニ・チャーム メンリッケ株式会社
代表取締役社長 森田 徹

「リーエンダ with TENA」発行にあたって

この度2020年より季刊誌「リーエンダ with TENA」を発行させていただくこととなりました。四半期に1回定期発行する目的は①日頃より私たちユニ・チャーム メンリッケと共に、現場での排せつケアを改善

することに取り組んでおられる方々の素晴らしい改善成果を広く世の中に向けて発信することで、善い刺激を生み出す機会としたいこと②看護・介護現場を取り巻く環境変化に関する新たな情報をお客様目線で分かり易く発信すること③TENA製品やサービスに関する新たな情報をタイムリーに発信すること——と考えています。

今回の創刊号では、私たち自身が考えるユニ・チャーム メンリッケの存在意義についてお話しさせていただきます。

「良い製品」「良い人」「良い仕組み」を最大化すること

日本には数多くの紙おむつメーカーがありますが、私は今後の事業展開の方向性を考えていく上で「未来に向けてユニ・チャーム メンリッケしかできないことを、如何にユニ・チャーム メンリッケ

らしく実現できるか」という視点に立って考えたいと思い、昨年7月に改めてその基盤となる【私たちのミッション・ビジョン・バリュー】を制定いたしました。

『ミッション：使命・目的＝コンチネンスケアへの取り組みを通じて、看護・介護の価値を高めることに貢献する』『ビジョン：どのように＝一人ひとりのご利用者様にとって最適なコンチネンスケアを、継続して考え・実行し・成果の出せる環境・仕組みを、全てのお客様の中に創造する』『バリュー：生み出す価値＝現場スタッフの皆さんと共に▽排せつの自立度（心身両面）を改善・維持する▽

看護介護の価値創造に、考え・行動し・結果を得る 「環境・仕組みづくり」を現場の皆様とともに

やりがいを生み出し・思いを高め・実力をつける▽無駄を省き経済的・時間的な生産性を上げる』がその内容となります。

私たちは、良いケアとは「(1)良い製品(2)良い人(3)良い仕組み」の3つの要素全てが高まっていることが前提であると考えています。

現場でいくら素晴らしい製品を使用している、人の働きが伴わなければ良いケアと言い切ることはできませんし、

良い仕組みがなければ継続性もかきません。

広がり始めた 「TENAマイスター認定」 「CST（コンチネンス・サポートチーム）活動」

TENAアドバイザー活動によって、お客様の現場で「(1)良い製品(2)良い人(3)良い仕組み」が三位一体として高まっていけるよう、『ミッション：使命・目的＝コンチネンスケアへの取り組みを通じて、看護・介護の価値を高めることに貢献する』と表現させていただきました。

現在500を超えるお客様で展開中の

TENAマイスター認定活動によってスタッフの皆さん

全員の排せつケアへの基礎固めを行い、CST（コンチネンス・サポートチーム）活動、によってご利用者様一人おひとりに適した個別ケアへと発展させていく取り組みを実践中です。

行き届かない点も多々あるかと思いますが、お客様と共に日本中でミッション・ビジョン・バリューが実現できますよう、この2020年を機に改めて社員一同全員が力を合わせて進めてまいります。

私たち(ユニ・チャーム メンリッケ)の存在意義

ミッション 使命・目的	コンチネンスケアへの取り組みを通じて、看護・介護の価値を高めることに貢献する
ビジョン どのように	一人ひとりのご利用者様にとって最適なコンチネンスケアを、継続して考え・実行し・成果の出せる環境・仕組みを、全ての顧客の中に創造する
バリュー 生み出す価値	現場スタッフの皆さんと共に ・排せつの自立度（心身共に）を改善・維持する ・やりがいを生み出し・思いを高め・実力をつける ・無駄を省き経済的・時間的な生産性を上げる



常に新しいことにチャレンジして、良い施設を作る

社会福祉法人戸井福祉会が運営する特養「潮寿荘」(北海道函館市)では2019年2月よりTENAを導入している。「業務を適正化して、職員の負担軽減と利用者のためのケアの時間を作りたかった」と施設長の柏原美之さん。



後列左より柏原美之施設長、池浦稔排泄委員会サブリーダー、築場洋平TENAアドバイザー。前列左より泉孝樹排泄委員会リーダー、小野六月介護主任

🔪 TENAを導入したきっかけは？

柏原美之 施設長 道内での特養の発表会でTENAを活用した発表です。当時、私の施設での1日6～7回のおむつ交換のうち、夜間帯は3～4回でした。1日のおむつ交換時間は約7時間。おむつ交換を最適化し、他の業務に注力できる環境を作りたいと思いました。人材不足や制度やニーズの変化に対し何もしないと、どんどん後退してしまいます。排泄ケアは難しい、と逃げず、前進するためにTENAを導入しました。職員の腰痛予防として導入したリフトも1年以内に定着したので、排泄ケアというより高いレベルに挑むことができる確信がありました。まずは、TENAを全職員が正しく当てられるように、導入前に研修・試験を行いました。ユニ・チャームメンリッケのアドバイザーに協力いただき、現在では全職員が「TENAマイスター」を取得しています。

🔪 最初におむつの当て方の統一に取り組んだ理由は？

池浦稔 排泄委員会サブリーダー 正しい当て方にもかわらず、漏れたときに「体調変化により尿・便量が多いのか」「交換タイミングが適切か」など、アセスメント視点で分析できるからです。また、尿漏れは入居者様の衣類やシーツの交換などが発生します。利用者様への負担も大きく、業務時間的ロスになるので、これらの課題を改善したかった。

🔪 排泄ケアで何が変わりましたか？

泉孝樹 排泄委員会リーダー 排泄委員会を立ち上げました。メンバーは介護職員と看護師と相談員の6人。毎月1回会議を行い、利用者の状態や職員が正しくおむつを当てられているかを把握します。

小野六月 介護主任 通常業務のなかでも排尿日誌を作成するようになりました。

柏原 施設長 以前は飲水が健康に良いと考えていましたが、排尿日誌で、頻りに尿漏れする入居者様の中に水分摂取量が多すぎる人がいると分かりました。水分と排尿の関係を改めて意識するきっかけになりました。

池浦さん 内容は委員会で共有し、すぐにケアに反映しました。尿漏れの回数が減り、頻尿も改善されました。

小野さん 導入前は、頻繁におむつ交換することが「臭いの予防」と考えていましたが、排泄状態を分析したことで、尿漏れが改善され、交換回数が減っても臭いが気になりませんでした。

🔪 TENAを導入して職員の変化はありましたか？

小野さん 利用者の状態をしっかりと確認する時間がとれるようになり、職員の気づきが増え、「便の状態が悪いのは下剤が影響？」「尿もれがあったが、水分摂取量が影響？」など、具体的な改

善提案も多くなりました。今では衣類まで交換が必要なケースは格段に減りました。

池浦さん 施設全体で、利用者を見て排泄ケアを考える意識が高まりました。

🔪 今後の目標は？

池浦さん 排尿日誌や便の状態などを分析し、迅速対応やアセスメント力を高めたいです。また、慣れ始めたからこそ初心にかえり、おむつの当て方の再徹底や、今年には研修とテストを予定しています。

小野さん ケアでは、排便コントロールに取り組んでいます。排尿は日誌を用いて、状態の分析、ケアへの反映ができました。プリストルスケールを活用しながら、より良い排便環境を整えていきたいです。また、トイレを「既定時間」ではなく「行きたいとき」に行くように、一人ひとりに合わせたケア実現を目指していきたい。

泉さん 看護・医療職との連携の強化です。排便コントロールを行う場合、下剤などの調整も必要です。看護以外に栄養士等とも連携して生活全体で排泄を支えたい。

柏原 施設長 導入して1年、職員の業務時間の改善、職員の意識の変化、これらの変化による利用者の過ごしやすい環境づくりの実現が、着実に達成できています。これは「おむつコスト」そのもの以上の成果ととらえています。介護は3年に1回制度が変わり、新たなケア、新たな考え方が求められます。良いと思ったことには、どんどんチャレンジし、現場を前進させ、より良い施設運営を叶えていきたいです。



TENAマイスター認定制度を活用し、当て方研修(実技・筆記)をスタッフ全員で実践。土台を形成し基礎を固める



現場の「やりたい」がもたらした患者さんにとっての快適

医療法人社団美心会が運営する「黒沢病院」(群馬県高崎市)では、おむつの当て方という基本的な手技を習得し、患者様と向き合う気持ちを大事に育てる「TENAマイスター認定」を通じて看護師を育成し、「患者様にとっ



右から眞館まなみ排泄サポートチーム、高木由美子看護部長、気仙真未副主任、並木幸代ディストリクトマネージャー

ての最善のケアの提供」に取り組んでいる。この制度は、1件のお客様から始まり、2018年よりユニ・チャームメンリッケ公認の認定制度とし全国に和を広げている。

👉 TENAマイスターに取り組んだきっかけは？

気仙真未 副主任 群馬CST(コンチネンスサポートチーム)の集会で、TENAマイスターに取り組む施設の皮膚トラブルの確認や利用者の状態をより分析したケア手法の話を聞き、私たちも実践したいと思い看護部長に提案しました。

高木由美子 看護部長 当院ではおむつ使用時のモレや褥瘡の発生率が低いです。これは、現場のナースがしっかり取り組んだ結果です。それをきちんと評価するため「なぜ発生しないのか」を深掘したいと思い、方法を探していたところにTENAマイスターの相談を受け、開始しました。現場から声をあげて頂いたことは本当にうれしかったです。

眞館まなみ 排尿サポートチーム 9月に相談をして11月にはユニ・チャームメンリッケのアドバイザーに協力いただき、勉強会・試験を実施、TENAマイスターに合格しました。

👉 TENAマイスターを取得して気づいたことは？

気仙さん おむつの当て方が、いかに快適さに影響するかです。TENAマイスターの勉強会では、看護師がお互い

におむつをつけあって体験しながら進めます。はじめは、「おむつ交換くらい」と思っていたのですが、実際は「おしりにフィットしないことの不快感」ととても実感しました。

今まで、患者様がどう感じているのかまで考えられていなかったと気づきました。

眞館さん 患者様の羞恥心をできる限り除くおむつ交換時の立ち位置など、交換の手技以外の視点に気がきました。おむつの当て方では、適切に身に着けられると、鼠径部におむつがフィットして内ももを巻き込まず、快適に過ごせる感動を今でも覚えています。

気仙さん 正しく身に着けたときのあまりの心地良さに、みんな試験後もしばらくおむつのまま過ごしていました(笑)。

高木部長 「モレることなく褥瘡を発生させない」ことはもちろん大切です。TENAマイスターに取り組むこと

で、患者様にとって羞恥心強い排泄ケアを、少しでも快適なものへ変えていく、療養環境改善の考えがより具体的に変わったことが一番大きな変化だと思っています。

👉 今後の目標は？

気仙さん TENAマイスターを取得する看護師を増やしたいです。正直、私自身TENAマイスターに取り組むことに抵抗があった時期もありました。しかし、実際におむつを身に着けて学ぶことで「快適な着け心地」を体験し感動しています。実際患者様にできたときはとてもモチベーションがあがります。

眞館さん 患者様の状態やADLの変化に常に合わせたおむつ選定ができる環境を目指したいです。より患者様の希望を察したケアができるように技術を磨いて広げていきたいです。

高木部長 おむつの使用は最もセンシティブなことです。新人にも継続して教育を実施していますが、今後も継続してTENAマイスターを取得していきます。しかし強制的に実施しても、モチベーションややる気にはつながりません。看護師がモチベーションを持ち患者様のために、自ら考え連携することで患者様への良いケアに繋がると考えます。

業務としての排泄ケアではなく、患者様により快適に笑顔で過ごして頂きたいと考えてTENAマイスターに取り組む看護師が増えるよう、経験や考えを語り、日常の中で種をまき、取組みの和を広げたいです。



TENAアドバイザーと共に病棟ラウンドにて排泄ケア指導

排泄支援の基本理念

※全国老人福祉施設協議会
平成30年度 老健事業「施設系サービスにおいて排泄に介護を要する
利用者への支援にかかる手引き」 伴走型介護の考え方より引用

1) 排泄という生活行為とおむつの意味

排泄は毎日行われる、とてもデリケートな行為です。多くの場合、物心がついてからは人の手を借りずに個人的に行われる生活行為であり、排泄を失敗するということは尊厳にかかわる重大なトラブルといえます。それに加えて、おむつを使用するということは、今まで当たり前に行ってきた行為ができなくなったことを排泄のたびに感じなくてはならない、ということの意味します。

2) 排泄を支援するということ

施設利用者には、おむつを使用している人が多くいます。施設で排泄ケアをしていると、おむつへの排泄が当たり前のように思えるかもしれませんが、本当に当たり前のことといえるのでしょうか。もちろんおむつへの排泄があってはならない、ということではなく、排泄機能にトラブルを抱えている人にとって、おむつにより守られる生活もあるでしょう。

しかし、トイレですか、おむつですか、を選べる状況で、おむつへの排泄を選択する人はおそらくいないのではないのでしょうか。まずトイレでの排泄を前提として、どうしてもできない場合におむつの活用を考える必要があります。排泄をケアするということは、ただ単に排泄による汚れの後始末を行うことではありません。

本人が感じる不快や不自由、不安、不満への視点を持ち、排泄にトラブルを抱えていても幸せに生きていくために、移動・移乗といった動作介助のスキルや、羞恥心やプライバシーへの配慮、気づき、声掛け、アセスメント力など、援助の総合力が問われる場面だといえるでしょう。

排泄には尿便意の知覚やトイレに行こうという認識、移動、着脱、移乗、排出、後始末、といったさまざまな機能や行為が関係します。排泄をケアするには、このように非常に幅広い、認識から動作に至るまでの本人の能力を把握し、動作に加えて心理面にまで配慮したかわりが求められます。そのため「排泄ケアの水準が高い」とは、すなわち質の高いケアを提供でき、本人の尊厳を大事にしていることで、排泄ケアに熱心に取り組むことはケアの質を向上させることに直結するのです。

介護する家族にとっても、身内の排泄のトラブルは大きな負担になる場合もあります。在宅介護の限界を感じる場面として排泄への対応をあげる家族も少なくはなく、そうした家族にショートステイの利用等を通じて排泄へのより良い対応を伝えることができれば、家族介護者の負担軽減にも貢献できます。

コメント

この度、季刊誌「リーエンダwith TENA」を発行させて頂くにあたり、「排せつケアとは」「何を大事にしていきたいか」を改めて皆様と考えさせて頂きたく上記文章をご紹介いたしました。

排せつケアはその方の尊厳や自尊心に大きく関わる分野であるからこそ、その方にとって良い方向に進むことは、生活の豊かさそのものに繋がるのではないかと考えています。だからこそ、私たちはCST（コンチネンス・サポートチーム）活動を通して、スタッフの方々の様々な視点・知識、そして思いを集結し、「その方自身の希望や可能性」を大事に共に考え続けていきたいと思えます。排せつの分野から、その方のQOLの向上、よいコミュニケーション・チーム活動の活性化を通してケア全体の高まりを共に実現していくこと、そして経営効率の側面にも貢献させて頂きたいと思えます。